

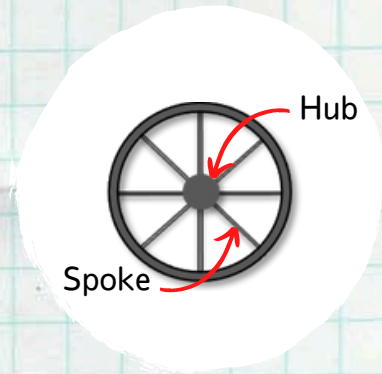
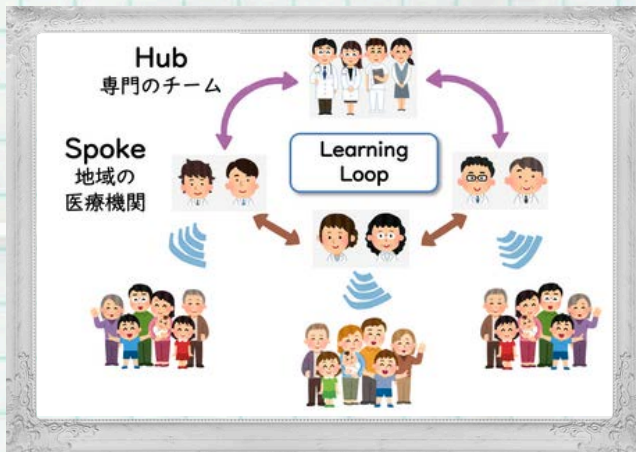
Project ECHO Autism Japan

Project ECHO Autism について

Project ECHO はインターネットを活用し、ハブ&スポークモデル（車輪のハブとスポークに例え、人材を育成する戦略）で専門職を養成するシステムです。専門的な医療機関等の社会資源が少ない地域でも、適切な介入や支援を受けることができるように、米国ニューメキシコ州の医師によって始められました。的確な情報、知識、技術を地域の専門職に提供することで、居住地や貧富の差に関わらず、質の高い介入と支援を提供できるようにすることを目的としています。

米国では2014年にECHO Act という連邦法により、全米全州であらゆる医療領域の現任トレーニング法として拡充されることになり、今では全世界でそのノウハウが共有されています。

Project ECHO Autism はミズーリ大学で始まり、TEACCH®自閉症プログラムも参入しています。地域の専門職に ASD の診断・介入、支援についてのトレーニングを提供することで、その地域がASDにフレンドリーなコミュニティとして発展することに寄与しています。



Project ECHO Autism Japan の目的

TEACCH®公認専門職から構成される多面的領域のチーム（ハブ）が、地域臨床に携わる臨床家、支援者（スポーク）をガイドしたりメンタリングしたりすることで、自閉症のある人とその家族が居住地に関わらず、よりよい介入、支援を受けられるようにすることを目指しています。

ミニレクチャーと事例のコンサルテーションは、TEACCH®アプローチを共通言語とし、TEACCH®自閉症プログラムの持つノウハウや、知識と技術を生かします。

Project ECHO Autism Japan ハブチームの構成

TEACCH®公認専門職ネットワーク協会（AC, Pレベル）

医療：佐川陽子（肥前精神医療センター） 高木一江（横浜ハビリテーションクリニック）

岡田祐輔（静岡県東部発達障害者支援センター）

心理：服巻智子（Mnds & Hopes） 新澤伸子（武庫川女子大学） 諏訪利明（川崎医療福祉大学）

福祉：小林公平（社福は一とふる） 西尾大輔（厚生労働省） 片山智博（北海道発達障害者支援センター）

教育：重松孝治（川崎医療福祉大学） 弓削香織（ココスマイル）

2024年度

1. テーマ：ASDの「診断」に関すること *年齢層は乳幼児から高校生まで
2. 毎回の内容
 - (1) 事例提示：毎回、正規参加団体1名から実施
 - (2) 質疑応答とハブチームからの情報提供、推奨事項の解説（後日書面で提供）
 - (3) ASDに関連するミニレクチャー（20分程度）
3. 実施期間・日時：**2024年10月～2025年2月までの5か月間**
 - ・月1回 木曜日（10月31日、11月21日、12月19日、1月23日、2月20日）
 - ・21:00～22:30（90分）
4. 募集：**2024年10月4日（金）まで**
 - ・対象：地域の医療機関に所属する、医師、心理士、その他のコメディカルスタッフ
 - ・定員：正規参加者（事例提示）：1団体あたり1回5名まで（最大5団体）
陪席参加者：1団体あたり1回3名まで（最大5団体）
*同一団体内での参加者の交代可
 - ・申込み方法：TEACCH®公認専門職ネットワーク協会HP内 または 右QRコード
[申込みフォーム](#) から（参加決定はメールで通知します）
5. 参加費用（5回分）：参加決定後に、振込先をお知らせします。
 - ・正規参加者：1団体 25,000円（1回5名まで）（事例に対するハブチームからの「推奨事項」込）
 - ・陪席参加者：1団体 10,000円（1回3名まで）
6. 参加方法：Zoom（録画配信は行いませんので、Liveでご参加ください）
7. その他
 - ・症例は指定のフォームに記入し、知りたい情報について明記してください。
（個人情報保護のため、個人を特定する内容は削除してください）
 - ・指定のDropboxに各回の資料をアップロードします。参加者は、事前の確認をお願いします。
 - ・個人情報に関する誓約書（事前提出）およびアンケート（開始前、5回終了後）にご協力ください。



2024年度 ミニレクチャー（予定）

毎回、ハブチーム及びゲスト講師による20分程度のレクチャーがあります。

※ 内容を一部変更する場合があります

テーマ：診断について、ほか

幼児期早期、高校生年代、併存疾患のある場合、など・・・ハブチーム
就学前（本田 秀夫先生）